

第100号  
平成29年  
6月

HPに 創刊号から  
連載中

## もう一つの道

情報は、うのみにせず、注意  
深く徐々に試して下さい。

山田整骨院  
熊本市中央区出水4-25-1  
096-364-7611

<http://yamadasu.com/>

熊本交通事故, 山田整骨院  検索

<http://www/jiko-kumamoto.net/>

### 生体一者と症状即療法(2)

医学博士 渡辺 正 月刊西医学 昭和50年6月

#### ◎ 発汗と嘔吐と下痢が一者を破る

ギリシャ時代の哲学者プロチノスは「健康とは、斉整せる一者として働く身体の状態である。」と述べている。たしかに生体一者の状態にある時、われわれは健康である。ところが、何かの原因で発汗したり、下痢したり、嘔吐したりした場合に一者が破れることになる。その原因が何であろうとも、発汗と嘔吐と下痢とは生者一体を破り健康に違和を来たすことになる。下痢をすると、体内の水分が失われて一者を破る。嘔吐をすると、胃液を吐き、体内の水分と食塩とが失われる。発汗をした場合には、生体内から水分と塩分とビタミンCが失われる。

元来、嘔吐も下痢も発汗も、それによって、中毒物を吐いたり、下痢したりして治らんがためにおこった症状である。発汗も同様で、体内の老廃物を汗にして捨てるためである。ところが、下痢すると水分を失い、嘔吐すると水分と食塩とを失い、発汗によっては、水分と食塩とビタミンCとを失う、そして生体一者を破り、疾病の原因になる。

生体一者の哲学を知っている者は発汗と嘔吐と下痢とによって失われたものを適正に補給することを忘れない。生体内から失われたものは補給する考えのないものは、やがて疾病の原因を体内につくることになる。

体内の水分が失われると、便秘を来し、血液中にグアニジンという毒素が増して、進行すれば尿毒症になる。食塩が失われると、胃酸が欠乏して胃弱、消化不良となり、一方、体液の酸とアルカリの平衡が破れて病弱となる。また、足の関節に機械的故障を起こして脚気のような病状になる。足の故障は万病の原因となる。

ビタミンCの欠乏は皮下出血をひきおこして、脳出血、胃潰瘍、腎臓病など成人病の原因となる。発汗と嘔吐と下痢は生体一者を破り、すべての疾病の根本原因であることを知らねばならない。発汗と嘔吐と下痢の三者に対して、適正な対策をとるか否かによって、健康か疾病かに分かれることになる。

下痢をしたら生水を補給すればよい。吐いたら、食塩と生水を補給すればよい。発汗をしたら、必ず生水と食塩とビタミンCの三者を補給しなければいけない。このようにすれば、生体一者を破り疾病にかかることはない。

#### ◎ 発汗によって体液の酸・アルカリ平衡が破れる・・・省略

#### ◎ 病気はない、それは症状である

現代医学では高血圧、胃かいよう、心臓病、リウマチ、神経痛、胃腸炎、感冒など数多くの病名をあげて、病気だとさわいでいるのに対し、西式では、それは病気ではなく症状であり、しかもそれは治るための療法だというのである。現代医学では健康を害する病気だというのに対して西式では、それは健康になるための療法だと主張するのである。現代医学の考え方と正反対の説となる。

例えば猛烈な下痢だと、大腸炎だとか赤痢だと騒ぐが、西式では赤痢の下痢は赤痢菌を体外に排泄してよくなるとうとする症状でありしたがって下痢は一種の療法である見るのである。

また結核患者の発熱は、結核菌を撲滅するために、生体の良能作用の現れであり、盗汗は結核菌による毒素を体外に排泄する作用である。喀痰は結核菌が白血球によりせん滅された塊であって、これを吐き出すことは喜ぶべきことである。

風邪をひいた時、悪感をすることがあるが、これもまた悪感によって静脈内にひそんでいるいろいろの細菌をはき出すための働きであり、またその発熱は体液を酸性からアルカリ性に転じて細菌を撲滅するための作用である。

中毒物を食べた場合に、吐いたり下したりするのは、中毒物を体外に排出するために吐いたり下したりするのである。

現代医学では、このような際に吐いたり下したりすることを病気だとして、これを止めようと注射をしたり薬をのませたりするのが常法である。西式では反対に大いに吐かせたり下すように算段するのである。

脳溢血をおこして、倒れたとする。倒れて安静に休むのが療法である。すなわち、西式では下痢の場合には生水を飲ませてかえって下痢をたすけ、また体内にできるグアニジンの毒を生水を飲んで解消する。

風邪の場合、悪感（さむけ）がする時はかえって薄着をして悪感を助け発熱のときは厚着をする。そして脚湯をして外から熱を与えて発汗させるのである。但し発汗させた際には水分と食塩とビタミンCの補給を忘れてはならない。

結核の時は、ビタミンCを補給すること。これは微熱によって、体内のビタミンCが破壊されておりそのために結核菌に対する抵抗力が減退しているからである。盗汗によって失った水分の補給として生水をちびちび飲むこと、食塩はゴマ塩にして補給することまた四肢の厥冷には温冷浴を行うとよい。このように、症状は療法であると考えて、これに従うように対処すると病気は治ってしまうものである。

### ◎ 症状即療法である

いま結核菌なり肺炎菌が体内に入り、不幸にして体の対抗力が弱く細菌が体内で繁殖したとする。そうすると生体に先天的に自然良能作用（自然回復のしくみ）がそなわっていて、繁殖する結核菌なり肺炎菌と戦うことになる。すなわち発熱したり、喀痰を出したり、盗汗を出したり、喀血したりするようになる。これがすなわちいうところの症状である。

現代医学では、これらの症状を疾病だといって発熱には下熱剤を喀痰には祛痰剤を、盗汗にはそれを防ぐ薬剤というように、これらの症状を止めることを療法と心得て、ただやみくもに強いクスリを使用する。ここに現代医学がクスリの副作用による医原病の問題で行詰ってしまった根本原因がある。

西式ではこれに反して、これらの諸症状を療法の一過程とみるのである。したがって、これらの個々の症状に対して、これをあえて防止しようとする処置を施さずに、生体一者としての健康増進に主力を注ぐことにしている。以下つづく。

## 解 説

症状即療法としては、終戦直後、集団食中毒事件が起こった時 被害者達が嘔吐した際医師は嘔吐止めを処方し、西式の会員は水をどんどん飲んで吐きました。水を飲んだ人は助かりました。パーキンソン病で手足が震える人は、震える必要があるということで器械でどんどん震わせませす。風邪を引いて熱が出たら、発熱が必要ということで、脚湯（膝下を42~43°Cで20分間温める）を行い、発汗させて下熱させます。気分が悪い時は微熱がありますから、着衣して風呂の浴槽で脚湯をすれば簡単に下熱して気分がすっきりします。私は西式を始めて丁度30年になります。最初は西式の理論や実践は医師の言うことと違って戸惑いました。しかし永年行っていますと、その方が普通となり、予防注射もしなくなりました。